

徳島県内で実施された エシカル消費に関する取組事例集

令和3年3月



目 次

1. 徳島県内で実施されたエシカル消費に関する取組事例集について	1
2. 県取組	
(1) 徳島県における「エシカル消費」の推進（消費者政策課）	2
(2) エシカル消費パワープロモーション	
・徳島県エシカル消費認知度向上プロジェクト（消費者政策課）	3
(3) みんなで学ぼう！エシカルクッキング事業・みんなで学ぶ！エシカル教室事業（消費者政策課）	5
(4) エシカル消費自主宣言事業者の募集・とくしまエシカルアワード（消費者政策課）	7
(5) 「消費者市民社会の構築に関する条例」	
（通称：エシカル条例）の制定（消費者政策課）	9
(6) とくしまエシカル消費推進会議（消費者政策課）	10
(7) エシカル消費自治体サミット・エシカル消費自治体ミーティング（消費者政策課）	11
(8) 「Go！Go！エシカル」わくわく徳島プロジェクト	
高校における「エシカルクラブ」推進事業（学校教育課）	13
(9) エシカル甲子園2019～私たちが創る持続可能な社会～（学校教育課）	14
(10) 特別支援学校「エシカルチャレンジ」事業	
・特別支援学校「みんなでエシカル・トライ！！」事業（特別支援教育課）	16
(11) 社会的課題に対応するための	
学校給食の活用事業（文部科学省委託事業）（体育学校安全課）	18
(12) 地域力×女性力「エシカル消費」推進事業（生涯学習課）	20
(13) 障がい者いきいき活躍就労促進事業（障がい福祉課）	22
(14) 小中学校の課外学習モデル構築事業（経営企画戦略課）	24
(15) 徳島木育サミット（スマート林業課）	25
(16) 食品ロス削減全国大会 in 徳島 開催事業（環境首都課）	26
3. 市町村取組	
(1) エシカル消費普及促進事業（鳴門市）	28
(2) 学校給食における地産地消の推進事業	
・Awa産Our消Myメニューコンクール事業（阿波市学校給食センター）	29
(3) エシカル消費普及事業（美馬市）	31
(4) エシカル推進事業（石井町）	33
(5) エシカル消費出前講座・広報誌での普及啓発「エシカル消費教室」（板野町）	34
4. 学校取組	
(1) エシカル消費をテーマに取り入れた「総合的な探究の時間」（徳島県立名西高等学校）	35
5. 事業者取組	
(1) イオンモール徳島での取組（イオンリテール（株）中四国カンパニー）	36

徳島県内で実施されたエシカル消費に関する取組事例集について

消費者庁は、平成29年7月に徳島に設置された消費者行政新未来創造オフィス※1において、平成29年度から3年間、徳島県内の消費者が「倫理的消費（エシカル消費）」についてどの程度、認知・理解しているか把握するため、意識調査※2を実施しました。

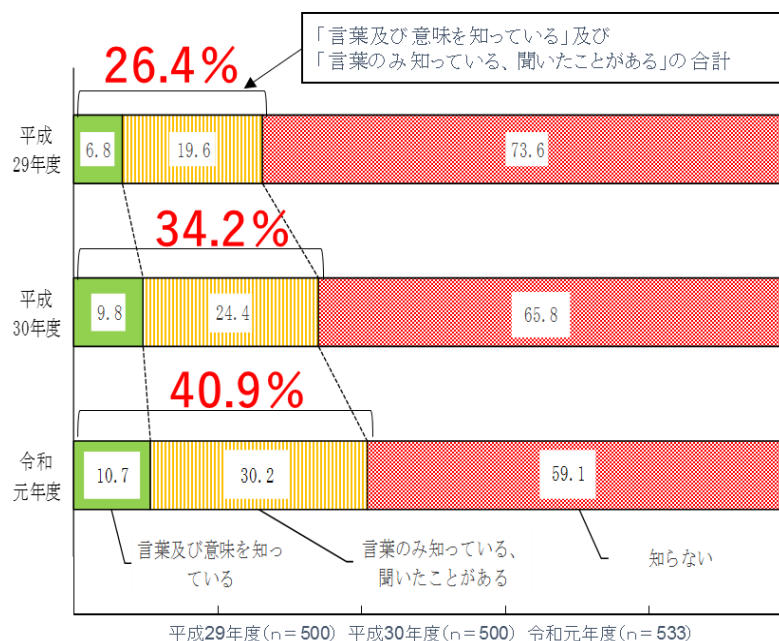
その結果、エシカル消費の認知度※3が26.4%（平成29年度）から40.9%（令和元年度）と、14.5ポイント上昇しました。（下図参照）

一方、消費者庁において全国を対象としたエシカル消費に関する意識調査※4を行った結果、エシカル消費の認知度※5は、6.0%（平成28年度）から12.2%（令和元年度）と上昇するも未だ高いとは言えない水準でした。

徳島県内の認知度の上昇は、様々な要因があると考えられますが、県内の行政を中心としたエシカル消費に関する取組も認知度上昇の一因と捉えています。

本事例集は、徳島県内でのエシカル消費に関する取組について、推進体制、事業の効果、苦労や工夫を広く全国に紹介することで、全国の地方公共団体等における取組の参考にしていただくことを目的として作成しました。

図 徳島県におけるエシカル消費の認知度



※1 令和2年7月30日に、恒常的な拠点として「新未来創造戦略本部」となった。

※2 調査結果の報告書は、下記消費者庁ウェブサイトに掲載

URL https://www.caa.go.jp/future/project/project_004/#investigation

※3 「倫理的消費（エシカル消費）」という言葉を知っていますか。の問いに「言葉及び意味を知っている」及び「言葉のみを知っている、聞いたことがある」と答えた割合の合計

※4 調査結果の報告書は、下記消費者庁ウェブサイトに掲載

URL https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/ethical/investigation/

※5 「エシカル消費に関する以下の言葉を知っていますか。（複数回答可）」の問いに「エシカル消費」と答えた割合

徳島県における「エシカル消費」の推進

危機管理環境部 消費者政策課

徳島県内のエシカル消費の認知度

消費者庁消費者行政新未来創造オフィスにおいて、徳島県内の消費者が「倫理的消費（エシカル消費）」についてどの程度、認知・理解しているか把握するため、平成29年度・平成30年度・令和元年度の3か年で意識調査を実施したところ、エシカル消費の認知度が、26.4%（H29）、34.2%（H30）、40.9%（R1）と上昇した。

エシカル消費推進の取組

徳島県では、エシカル消費を推進するため、消費者部局が庁内各部局と連携し、次の4つを意識して事業に取り組んでいる。

※各事業の具体的な取組は個別の事例を参照

1. エシカル消費という言葉を知ってもらう

〇まずは、「エシカル消費」という言葉を知ってもらうことを目的に、情報提供を継続的に実施

エシカル消費を知ることができる講演会やフォーラムの開催のほか、県が実施するエシカル消費関連の事業やイベント、事業者や団体の取組紹介等、SNSを利用した情報発信や、「パワープロモーション事業」としてタウン誌への記事掲載、映画館での啓発動画の放映等、様々な媒体を活用し、啓発活動を行った。

2. エシカル消費を生活に取り入れてもらうための教育

〇言葉を知ると、「もう少し学びたい」「行動するために学習したい」等学習意欲が高まるのではないかと考え、エシカル消費を学べる事業を実施

【学校教育現場】

県内の3高校をエシカル消費リーディングスクールとして指定し、エシカル消費を学ぶモデルを構築した後、県内全ての公立高校でエシカルクラブを設置するほか、特別支援学校においても「エシカルチャレンジ事業」を実施している。

【県民・事業者向け】

消費者大学校大学院において「エシカル消費コース」を開設して生涯学習の機会を提供している。また、小中学生とその保護者を対象に、ショッピングモールにおいて「エシカル教室・エシカルクッキング」を実施した。

3. エシカル消費を生活で実践

〇エシカル消費を行動につなげることができるような機運を醸成

福祉部局・環境部局・農林水産部局・教育委員会・企業局と連携し、幅広い分野でエシカル消費に関する事業を展開するため、県庁内に「エシカル消費タスクフォース」を設置して情報交換を行い、協力を仰いだ。また行動につなげてもらえるように事業者や県民に向けて「エシカル消費自主宣言」をする事業者や団体を募集したほか、「エシカル条例」を制定した。さらに、エシカル消費の推進母体となる「とくしまエシカル消費推進会議」を設立し、連携事業の実施、情報交換を行った。このように多様な主体と連携して、エシカル消費の普及に努めている。

4. 徳島県から全国へエシカル消費の輪を広げる

〇徳島県から全国へエシカル消費を発信

「エシカル消費自治体サミット」では全国自治体の職員同士の情報交換・連携を図った。「エシカル甲子園」は、全国の高校生やその保護者の世代の方にも関心を持ってもらう機会となった。さらに、徳島県内で実施した「エシカル教室」を広島県と共催で広島県内で実施するなど、全国へエシカル消費の輪を広げる事業を展開している。



エシカル教室in広島の様子

エシカル消費の取組を広げていく上で苦労した点と工夫した点

県庁内については、各部局が取り組む業務とエシカル消費の関連性を理解してもらうことが難しかったが、各部局にタスクフォースに参加してもらうことで、消費者部局以外でも取り組めることであることを伝えた。また、エシカル消費をキーワードとした事業を各課で創設することによって全庁の一体感を醸成できるように工夫した。

県庁外については、事業者の方にエシカル消費に取り組むメリットを理解してもらうことが難しかったため、まずは一つの事業者にもモデルになってもらい、他の事業者に広げていくように工夫した。

エシカル消費パワープロモーション事業 徳島県エシカル消費認知度向上プロジェクト

危機管理環境部 消費者政策課

事業内容

エシカル消費の認知度が高い徳島県であるが、更なる認知度向上のため、「エシカル消費パワープロモーション事業」として、県内のタウン誌やフリーペーパー誌、県内市町村の広報紙に一齐にエシカル消費に関する記事を掲載すると同時に、SNS（Twitter）を活用したキャンペーンを実施した。また、「認知度向上プロジェクト」として、県内の映画館で、県が作成したエシカル消費に関する動画を放映するほか、Twitterで情報発信を行い、エシカル消費への機運醸成を図った。

事業名	パワープロモーション事業	認知度向上プロジェクト
実施年度	令和元年度	令和元年度
予算	5,070千円	264千円
消費者行政強化 交付金活用額	2,500千円	なし
対象	一般県民	一般県民
宣伝方法	県内のタウン誌、フリーペーパー、 県内自治体の広報誌	映画館での上映



エシカル消費に関する動画

事業の特徴・ポイント

【パワープロモーション事業】

- ・県内で発行されている主要なタウン誌やフリーペーパーの誌面や県内自治体の広報誌に、エシカル消費関連記事を一齐に掲載。
- ・期間は、「徳島県消費者市民社会の構築に関する条例」（通称：エシカル条例）で「徳島県消費者市民社会推進期間」、国の「消費者月間」、「世界フェアトレード月間」等に指定されている「5月」を中心に実施。
- ・SNS（Twitter）を活用したキャンペーン（ハッシュタグ「#わたしのエシカルチャレンジ」を付けて、自分がチャレンジしている・したいエシカル消費をツイートしてもらう）を実施。

【認知度向上プロジェクト】

1. 映画館の幕間を利用し、エシカル消費の動画を放映。
2. 「エシカルクリスマスin徳島」Twitterを活用し、エシカル消費に関連した内容を情報発信。
5月に「エシカル消費パワープロモーション事業」でタウン誌、県内自治体の広報誌での啓発を行ったが、5月だけに拘らず、年間を通して情報発信を行うため12月に実施した。

期待される効果

【パワープロモーション事業】

一般消費者の目に触れる機会の多い県内のタウン誌や県内自治体の広報誌に一齐にエシカル消費に関する記事を掲載することで、県内でくまなく情報発信し、認知度向上につながる。

【認知度向上プロジェクト】

映画館やSNSなど幅広い媒体を活用し情報発信することで、「エシカル消費」という言葉を知らない消費者に対しても働き掛け、認知度向上につながる。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

【認知度向上プロジェクト】

映画館での放映、Twitterでの情報発信を12月に集中的に実施することで、エシカル消費への機運を醸成した。

エシカル消費パワープロモーション事業 徳島県エシカル消費認知度向上プロジェクト

危機管理環境部 消費者政策課

【パワープロモーション事業】

- ・タウン誌の表紙に「エシカル消費」の文字が並ぶインパクトで県民の関心を引き、掲載記事により理解と行動を促した。
- ・誌面にイラストや写真を多く使用し、楽しくエシカル消費を学べるように工夫した。

事業の効果・成果

【パワープロモーション事業】

県内で親しまれているタウン誌やフリーペーパーに県下一斉にエシカル消費に関する記事を掲載することで、幅広い世代にエシカル消費を知ってもらうきっかけとなった。

(掲載数：タウン誌 4 誌、フリーペーパー 3 誌、徳島県及び県内市町村計25自治体の広報誌)

【認知度向上プロジェクト】

映画館でのエシカル消費動画の放映 (上映回数：46回、観客：4,083名)

事業スケジュール

平成31年		令和元年			
1 月	4 月	5 月	10 月	11 月	12 月
<ul style="list-style-type: none"> ● 県内市町村へ 広報誌への記事掲載依頼 ● とくしまエシカル消費推進会議 へ広報協力依頼 		<ul style="list-style-type: none"> ● 委託事業者と契約 (タウン誌への掲載) 	動画の企画・準備		<ul style="list-style-type: none"> ● 映画館放映
		● 記事掲載			

タウン誌への掲載内容

6 ページに渡ってエシカル消費について特集し、3つのコーナーを掲載した。「エシカル消費ってなあに？教えて！」や「エシカル消費にチャレンジしてみよう」では、商品の背景に目を向けることの重要性や、実際に消費者が生活の中でできることを紹介した。また、「エシカル消費に取り組む高校生の活動を紹介」では、地元高校生の取組を紹介することで県民にとって親しみやすい内容とした。



タウン誌を一齐にジャック

みんなで学ぼう！エシカルクッキング事業

みんなで学ぶ！エシカル教室事業

危機管理環境部 消費者政策課

事業内容

エシカル消費の普及を促進するため、小・中学校生とその保護者を対象に、平成29年度は「みんなで学ぼう！エシカルクッキング」と題し、鳴門教育大学や、イオンテール（株）と連携し、地産地消やフェアトレード商品を活用した料理教室を実施した。平成30年度は「みんなで学ぶ！エシカル教室」と題し、同社協力の下、エシカル消費につながる認証マーク付きの商品について学んだ後、実際に店舗内でマーク付きの商品を確認し、認証マーク付きの商品や地元の食材を使った料理の試食を行い、参加者にフードチェーンを体感してもらった。また、同教室を広島県でも実施した。

事業名	エシカルクッキング	エシカル教室
実施年度	平成29年度	平成30年度
予算	—	2,000千円
消費者行政強化 交付金活用額	—	2,000千円
対象	小学5・6年生、中学生 (親子ペア、子ども同士ペア)	徳島県及び広島県の小・中学生 及び保護者
参加人数	8組16名	徳島県:20名 広島県:21名
宣伝方法	ホームページ掲載	ホームページ掲載、チラシ設置、 報道各社資料提供 等



エシカルクッキングの様子

事業の特徴・ポイント

【エシカルクッキング】

「エシカル消費」と「徳島の豊かさ」への理解をより深めてもらうため、鳴門教育大学プロジェクトチームと連携し、地産地消の食材やフェアトレード商品を活用したエシカルクッキングを実施。

【エシカル教室】

エシカル消費への理解や実践力を高めるため、エシカル消費につながる認証マークを学び、実際に食することを通して、生産から食卓までのフードチェーンを体感。

- (1) 講義「エシカル消費ってなに？」(講師：消費者庁消費者教育・地方協力課課長補佐、徳島県危機管理環境部次長)
- (2) 「エシカル商品・農産物を探そう」イオンモールにてエシカル消費につながる認証マークが付けられている商品を実際にチェックしながら商品の背景を学ぶ
- (3) 「生産から食卓までを体感しよう」認証マークが付いた商品や徳島・広島県産食材を使った料理の試食(小型PRトラック「でり・ぱりキッチン阿波ふうど号」利用)

期待される効果

徳島県産や広島県産の農林水産物の消費推進を図るとともに、エシカル消費への理解や実践力を高める。



エシカル教室の様子

みんなで学ぼう！エシカルクッキング事業

みんなで学ぶ！エシカル教室事業

危機管理環境部 消費者政策課

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

【エシカルクッキング】

地元の食材の豊かさを実感できるように、主菜・副菜・デザートにフェアトレード商品や県産食材をたくさん使用し、地産地消やフェアトレード商品の活用が実感できるようにした。

【エシカル教室】

- ・実際の売り場で商品が確認でき、エシカル消費と実生活を結びつけることができるようにした。
- ・「座学での学習」→「売り場でのマーク等の確認」→「調理された料理を消費」の学習を体験的に進めることにより、フードチェーンを実感できるようにした。
- ・大人と子どもで同じ資料・説明にしたので、子どもには理解が難しい場合があった。

参加者の反応・感想

【みんなで学ぼう！エシカルクッキング】

- ・エシカル消費について関心が高まりました。 ・身近にできることを見つけ、周りに伝えていきたいです。
- ・もっとエシカル消費について勉強したいです。

【みんなで学ぶ！エシカル教室】

- ・今まで安いものばかりを買っていたが、よく考えて買い物をしたい。 ・これからも学んでいきたい。
- ・エシカルのことや、いろんなマークが分かった。

事業年間スケジュール

平成29年		平成30年					
6月	10月	1月	5月	6月	7月	8月	11月
●会場使用申請		●打合せ（随時）					
●計画書作成		●メニュー決定、チラシ作成					
●食材計画書作成							
●打合せ・準備		●広報					
●エシカルクッキング開催						●エシカル教室 開催（徳島）	●エシカル教室 開催（広島）

エシカル消費タスクフォースの連携

エシカル教室を開催するに当たり、県庁内に設置した「エシカル消費タスクフォース」の連携により、エシカル農産物を推進している農林部局の協力が得られ、キッチントラック「でり・ばりキッチン阿波ふうど号」を活用してエシカル商品を使用した料理の提供を行うことができた。タスクフォースでの情報交換が、部局を越えて円滑に連携することにつながった。

広島県でのエシカル教室開催

徳島でのイベントを県外にも広げていきたいと考え、広島県と連携し、広島県内のイオンモールでもエシカル教室を実施した。広島県でも「でり・ばりキッチン阿波ふうど号」を活用して、徳島県と広島県の食材を使用した料理を提供し、エシカル消費の普及啓発を行った。

エシカル消費自主宣言事業者の募集 とくしまエシカルアワード

危機管理環境部 消費者政策課

事業内容

徳島県では、消費を通じて環境、人や社会、地域における社会的課題を解決する「エシカル消費」を徳島から全国へと発信していくため、平成29年2月に「とくしまエシカル宣言」を実施した。本県では、同宣言の主旨に賛同して「エシカル消費自主宣言」を行い、エシカル消費の推進に取り組む徳島県内の事業者及び団体を随時募集している。

また、県内事業者等のエシカル消費に関する意識の高揚を図るため、平成30年度に「とくしまエシカルアワード」を創設し、エシカル消費の普及推進に顕著な功績のあった事業者等を表彰し、その功績を称え広く紹介している。

実施年度	平成29年度～継続中
予算	33千円（令和元年度）
消費者行政強化 交付金活用額	なし
対象	所在地が徳島県内の事業者及び団体 （県外に本店を有する事業者等の営業所等も含む）
参加人数	エシカル消費自主宣言事業者：47事業者（R3.1月現在）
宣伝方法	ホームページ及びSNSに掲載、チラシの配布



募集チラシ

期待される効果

事業者及び団体が自らのエシカル消費に対する思いや取組を自主宣言し、消費者や社会に発信することで、消費者がエシカル消費に取り組む事業者等を応援しようという動機付けとなり、エシカル消費の普及浸透を促進する。

さらに、事業者等のエシカルな商品やサービスの提供や消費者の消費行動を通じて、人権や環境、貧困等の社会的問題の解決につながる。

エシカルアワードを受賞した団体の取組

●株式会社 日誠産業

広島平和記念公園には、年間10トンもの折鶴が捧げられており、一定期間展示された後、倉庫で保管されてきた。日誠産業では「恩返しプロジェクト」として折鶴から再生パルプを制作し、新たな商品として平和への思いを伝えることに取り組んでいる。

●特定非営利活動法人 あわ・みらい創生社

寄付付きシール「エシカル・シール」を考案し、地元で生産された商品や農作物に貼り、地域の誰もが気軽に寄付ができる仕組みを作った。集まった寄付金は、ファミリーサポートセンターの本部である公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワークに寄付し、子育て支援に取り組む活動を行っている。

●喜多機械産業 株式会社

社内報に「私のエシカル消費リレー」として、社員が各自で行っているエシカル消費に関する取組について、交代で原稿を作成し掲載している。社員一人一人が自分のこととして、エシカル消費を考える機会となっている。また、売上の5%をボルネオトランスジャパンに寄付する自動販売機を県内に設置している。



再生パルプを用いた製品の例



エシカルシール



社内報

エシカル消費自主宣言事業者の募集 とくしまエシカルアワード

危機管理環境部 消費者政策課

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

エシカル消費に関するセミナー等でエシカル消費自主宣言事業者が事例発表する機会を設けるほか、徳島県の消費者行政・消費者教育の広報誌「とくしまPROJECT」に、自主宣言事業者のエシカル消費に関する活動内容を掲載してもらう等、情報発信の場を提供している。このことにより、行政機関のみならず、事業者や地域の団体等もエシカル消費に取り組んでいることが県民に伝わり、身近な問題として感じてもらう機会となっている。また、事業者・団体等にとっても自分たちの取組を多くの人に知ってもらう良い機会となっている。

今後、更にエシカル消費自主宣言事業者の数を増やし、エシカル消費に関する意識の高揚を図りたいと考えている。

事業の効果・成果

- ・令和3年1月末現在、47の事業者及び団体がエシカル消費自主宣言を行っている。エシカル消費に積極的に取り組む団体等への声掛けや、自主宣言している事業者からの紹介等で新たな事業者等の自主宣言につながった。（平成29年度20事業者、平成30年度14事業者追加、令和元年度8事業者追加、令和2年度5事業者追加）
- ・エシカル消費自主宣言事業者の業態は、事業者、団体、教育機関、行政等多岐に渡り、様々な分野でエシカル消費が広がっている。
- ・「とくしまエシカルアワード」で、受賞団体の活動を積極的に広報することで、他の団体や事業者にとっても良い影響を及ぼし、エシカル消費の推進に意欲的に取り組むことにつながっていると考えられる。

「エシカル消費自主宣言」事業者等一覧（宣言順）

1	石井町	25	国立大学法人鳴門教育大学
2	株式会社阿波銀行	26	徳島市環境衛生組合連合会
3	株式会社ヨコタコーポレーション	27	JA東とくしま
4	NPO法人あわ・みらい創生社	28	徳島合同証券株式会社
5	医療法人徳松会	29	喜多機械産業株式会社
6	徳島県立吉野川高等学校	30	リコージャパン株式会社徳島支社
7	徳島県立城西高等学校	31	saai dye studio (サアイ ダイ ステューディオ)
8	有限会社ココカラハッピー	32	板野町ふるさと味づくり研究会
9	板野町	33	有限会社NOUDA
10	生活協同組合とくしま生協	34	夏子いなか市
11	阿波ノ北方農園	35	上板町
12	NPO法人とくしま障がい者就労支援協議会	36	仲野産業株式会社
13	JA夢市場	37	有限会社うずしお食品
14	イタリアンジェラート ドルチェ	38	学校法人徳島文理大学
15	徳島県 企業局	39	徳島県味噌工業協同組合
16	株式会社日誠産業	40	有限会社サンコーファーマシー
17	株式会社キョーエイ	41	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
18	NPO法人徳島県消費者協会	42	有限会社ハイブラ
19	障がい者就労支援センターかがやき	43	徳島県立那賀高等学校
20	阿波市観光協会	44	イオンモール株式会社イオンモール徳島
21	ショッピングプラザアワーズ	45	一般社団法人徳島県食品衛生協会
22	おやつの店taberu.	46	吉野川オアシス株式会社
23	株式会社アゲイン	47	オージージャパン株式会社（工房たけ徳島）
24	学校法人四国大学		令和3年1月末現在

「徳島県消費者市民社会の構築に関する条例」 (通称：エシカル条例) の制定

危機管理環境部 消費者政策課

事業内容

徳島県では、消費者市民社会の構築に関し、基本理念を定め、県の責務並びに消費者、事業者及び関係団体の役割を明らかにするとともに、消費者市民社会の構築に関する必要な事項を定める「徳島県消費者市民社会の構築に関する条例」(通称：エシカル条例)を制定し、平成30年10月24日に施行した。条例では、消費者自らの消費生活における人権、地域及び環境に配慮した消費行動を推進し、現在及び将来の世代にわたって、公正かつ持続可能な社会の形成を図ることや、その発展に寄与することを目的としている。

また、同年11月12日に、消費者市民社会の構築を目指す取組のキックオフとして、県民に条例の趣旨とエシカル消費等への理解を深め、機運を高めてもらうため、講演会を開催した。

事業の特徴・ポイント

- ・エシカル条例は、消費者市民社会の構築に関する理念を定めたものであり、議員提案により提出されたもの。
- ・講演会では、条例制定の基調報告や事業者・団体のエシカル消費に関する取組事例の報告、トークセッションを行い機運を高めた。

期待される効果

講演会は、エシカル条例を制定したことを広く周知する機会となり、エシカル消費に取り組む土壌づくりにつながった。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

講演会では高等学校の生徒が登壇し、取組報告を行うことで、若い世代にもエシカル消費に関心を持ってもらうきっかけとなった。

**消費者市民社会の構築に関する条例
制定記念講演会**

2018年11月12日(月) 13:00~15:30
(12:30開場)
JRホテルクレメント徳島
徳島市寺島本町西1丁目61番地

主催者挨拶 徳島県議会議長 重清 佳之
来賓挨拶 徳島県知事 飯泉 嘉門
基調報告 消費者市民社会の構築に関する条例について
徳島県議会議員 岡 佑樹

トークセッション Part1 13:20~
木村 尚子 mizuho株式会社 代表取締役
規格外野菜から生まれた クレヨン開発STORY

トークセッション Part2 15:10~
尾原 知明 消費者庁 消費者教育・地方協力課長
エシカル消費が地域文化を救う

14:10~ 取組報告
坂本 有芳 家庭の食品ロスを効果的に減らすには
岩附 由香 特定非営利活動法人ACE代表
亀谷 寿長 (株) 日誠産業 営業部長
徳島商業高等学校 生徒代表
「エシカル消費」を推進する
「エシカル消費」を推進する
「エシカル消費」を推進する

主催：徳島県議会 共催：徳島県、とくしまエシカル消費推進会議
後援：消費者庁(申請中)、徳島県教育委員会
協力：文化庁 地方創生本部事務局

要事前申込み(先着順)
定員150名/参加無料



トークセッションの様子



参加者による記念撮影

とくしまエシカル消費推進会議

危機管理環境部 消費者政策課

事業内容

消費者、事業者、学校、行政等、様々な主体により構成され、地方では初となるエシカル消費の推進母体「とくしまエシカル消費推進会議」を平成29年7月に発足した。エシカル消費の認知度向上を図るため、エシカル消費に積極的に取り組む団体や幅広い分野の方（経済、教育、農業、マスコミ等）で構成している。

会議を年に1～2回開催し、徳島県の取組や施策の紹介、連携事業の実施、会員が実施する取組等の情報交換や会員同士の交流を行っている。

実施年度	平成29年度～継続中
予算	9千円（平成30年度）
消費者行政強化 交付金活用額	なし
対象	とくしまエシカル消費推進会議に加入する委員 （消費者団体、事業者、学校、行政機関等で構成）
参加人数	14事業者・団体 （令和2年度から組織改編を行い、更に拡大予定）
宣伝方法	会議開催後、ホームページに開催状況掲載



第4回「とくしまエシカル消費推進会議」（H31.1.30）の様子

期待される効果

エシカル消費推進会議を通じて、多様な主体と連携して事業を実施することで、消費者にとってエシカル消費がより身近なものとして捉えられ、幅広くエシカル消費の普及浸透を期待できる。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

推進会議を開催後、県ホームページに掲載し情報発信することで、消費者、事業者、学校、行政等が連携し、エシカル消費に取り組んでいることが周知され、県民への意識の醸成につながっていると思われる。

県民にエシカル消費を身近な問題として捉え、実際の行動に移してってもらえるよう、今後は推進会議の会員を更に広げ、更なる連携強化を図りたい。

事業の効果・成果

推進会議の中で、県から会議の委員に事業への協力の依頼を行った。具体的には、SNS（Twitter）を活用したキャンペーン（ハッシュタグ「#わたしのエシカルチャレンジ」を付けて、自分がチャレンジしている・したいエシカル消費をツイートしてもらう）への参加を呼び掛け、委員が実践している取組事例をリレー形式でTwitterで発信した。エシカル消費の推進母体が設立されたことで、行政機関のみならず、団体や事業者、学校等、多様な立場からエシカル消費を推進し、連携することができた。消費者の身近なところで取組が広がっており、消費者にエシカル消費を自分ごととして考えてもらうきっかけになっていると思われる。

会議の様子について

第4回「とくしまエシカル消費推進会議」の意見交換では「消費者にSDGsとエシカル消費の関連性をどう伝えるか」などについて、議論が交わされた。

また、5月の「消費者市民社会推進期間」でのエシカル消費の周知広報の協力、会員が制作した「エシカルソング」や、県が制作の「チラシ・動画」など、普及啓発用コンテンツの情報交換も行った。

エシカル消費自治体サミット エシカル消費自治体ミーティング

危機管理環境部 消費者政策課

事業内容

エシカル消費の普及啓発を積極的に行ってきた徳島県が主体となり、他の自治体との連携を図り、更にエシカル消費に関する施策を全国各地で発展させるため、平成30年度は「エシカル消費自治体サミット」（以下「エシカル消費サミット」という。）と題し、三好市のシモノロ・パーマネント（旧下野呂小学校）でエシカル消費に関するトークセッションやイベントを実施した。令和元年度は「エシカル消費自治体ミーティング」（以下「エシカル消費ミーティング」という。）と題し、自治体職員同士で活発な交流ができるようエシカル消費に関する講演やワークショップを実施した。

事業名	エシカル消費サミット	エシカル消費ミーティング
日時	平成30年7月22日	令和元年12月26日
予算	2,047千円	88千円
消費者行政強化 交付金活用額	1,027千円	なし
対象	全国の自治体職員等	全国の自治体職員等
参加人数	500名	30名
宣伝方法	自治体へ文書を発送	自治体へ文書を発送



エシカル消費サミットの記念撮影

事業の特徴・ポイント

【エシカル消費サミット】

- （１）全国自治体等によるトークセッション：各自治体や団体が「エシカル消費に関する取組紹介」を行ったあと、「エシカルな社会の実現に向けて地方ができること」について話し合った。
- （２）「共同宣言（シモノロ宣言）」：参加者が一丸となり、より一層のエシカル消費の普及に向け宣言した。
- （３）エシカル消費を身近に感じてもらうイベントの開催：エシカルな傘づくりのワークショップ・人や地域に配慮した藍染め缶バッジの作成等

●シモノロ宣言

私たちは、愛する地球から世界と未来を見つめ、公正で持続可能な社会づくりのために一人一人ができることを考え、語り合いながら行動します。

そして、誰一人取り残さない世界の実現を目指し、多様性を尊重し、協働の輪を広げながら主体的にエシカル消費を推進することを宣言します。

今日のこの小さな宣言の灯火（ともしび）が、これから燎原（りょうげん）の火となり社会を動かす原動力となることを信じて、10年後、もう一度このシモノロの地で集い合いましょう。



エシカルサミットの様子

エシカル消費自治体サミット エシカル消費自治体ミーティング

危機管理環境部 消費者政策課

【エシカル消費ミーティング】

エシカル消費の自治体ネットワークを継続するため、他の自治体、県内市町村と連携し、各自治体からの事例報告やワークショップによる情報交換を行った。

- (1) 講演「エシカル消費自治体ミーティング～エシカル消費の普及は地域活性化の切り札」
(四国大学短期大学部・加渡いづみ教授)
- (2) 自治体取組発表
- (3) ワークショップ：自分が行うエシカル消費の活動を発表するゲーム



エシカル消費ミーティングの様子

期待される効果

エシカル消費を通じた自治体同士の関係づくりにより、今後の施策への展開につながり、エシカル消費を推進していく後押しとなる。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

【エシカル消費サミット】

共同宣言を行い、エシカル消費に関する取組が一過性に終わることなく、今後も推進していく決意を確認し合った。

【エシカル消費ミーティング】

一方的に講義をするという形ではなく、ワークショップ（カードゲーム）を実施するといった、参加者等が能動的に、楽しくエシカル消費を学べる機会を作った。

事業の効果・成果

- ・全国の自治体や県内の自治体等の取組を知ることによって今後の施策の参考になった。
- ・自治体同士の横のつながりを作ることができ、活動の幅が広がった。

事業年間スケジュール

平成30年				令和元年	
4月	5月	6月	7月	11月	12月
<ul style="list-style-type: none"> ●企画 <ul style="list-style-type: none"> ●講師選定・交渉 ●自治体へ参加依頼・関係者打合せ 事前調整 				<ul style="list-style-type: none"> ●講師選定・交渉 自治体へ参加依頼 打合せ等 	
●サミット実施				●ミーティング実施	

「Go！Go！エシカル」わくわく徳島プロジェクト 高校における「エシカルクラブ」推進事業

教育委員会 学校教育課

事業内容

公立高校に「エシカル消費」を研究・実践する組織「エシカルクラブ」を設置し、様々な取組等を通して、「エシカル消費」の普及・啓発を図るとともに、持続可能な社会の実現に向けて、主体的に行動することができる消費者力の育成を目指す。

実施年度	平成29年度～継続中
予算	8,000千円
消費者行政強化 交付金活用額	4,000千円
対象	公立高校
参加人数	公立高校40校（定時制及び分校も含む）
宣伝方法	年度始めに各校へ実施要領を送付

事業の特徴・ポイント

- ・県内の全ての公立高校に、「エシカルクラブ」を設置している点。
- ・平成29年度は12校、平成30年度は27校、令和元年度は40校と設置校を増やしてきた。

期待される効果

- ・「エシカル消費」の普及・啓発。
- ・高校生に消費者市民としての意識を醸成する。
- ・「エシカル消費」を研究することを通して、批判的思考力や適切な意思決定力を育成できる。
- ・多様な主体と学校現場との連携強化。



実践報告集



取組をまとめたパネル展

現場との連携、工夫した点

- ・エシカル消費に関する講義や実習、フィールドワーク等の研修会を開催し、各校の活動を支援している。また、各校が事業費を利用して、自校でエシカル消費に関する研修会を開催する等して、エシカル消費に関する知識、理解を深めている。
- ・クラブの形態や活動内容については、学校の実情に応じて、生徒会や農業クラブ、家庭クラブ等既存の活動に合わせて行うなど、学校の裁量で活動できる形にした。
- ・他校の取組を参考にしてもらえるように、毎年実践報告集を作成し、配布している。

学校での実践例（徳島県立名西高等学校）

名西高校のエシカル消費啓発キャラクターである「うさカルちゃん」を考案し、平成30年度は普及啓発グッズとしてうさカルちゃんのクリアファイル、令和元年度は付箋を作成した。クリアファイルの裏面には、文化祭で校内表彰されたエシカル消費の標語等を掲載している。文房具でグッズを作成した理由は、普段目に入る機会が多く、エシカル消費を意識してもらえる機会も多いと考えたからである。令和2年度もボールペンを作成し、石井町のエシカル座談会や全校生徒に配布して啓発を行う。他にも、牛乳パックをアップサイクルして椅子を製作し、保育園に届ける活動も行っている。



啓発グッズ

エシカル甲子園2019～私たちが創る持続可能な社会～

教育委員会 学校教育課

事業内容

エシカル消費の推進に積極的に取り組んでいる高校生等が、その取組に関する発表を行い、そのうち特に優れたものについて表彰が行われる「エシカル甲子園」を開催した。

全国70校の参加申込の中から、審査委員会の審査を経て12校の高校生等が、エシカル消費の大切さを全国に向けて広く発信した。

日時	令和元年12月27日
予算	10,000千円
消費者行政強化 交付金活用額	5,000千円
対象	高等学校、中等教育学校（後期課程）、特別支援 学校高等部、高等専門学校（3年次まで）
参加人数	350名
宣伝方法	【出場校の募集】 募集要項を郵送、ホームページ掲載、メール送付 【観覧者の募集】 チラシの配布、ポスター掲示、ホームページ掲載等



参加者による記念撮影

構想したきっかけ・経緯

県教委では、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている、「持続可能な生産消費形態を確保する」社会の形成に向けて行動することができる人材の育成及び、その必要性の発信が重要であると捉え、平成27年度に「エシカル消費」推進プロジェクト研究校を指定するなど、「エシカル消費」の取組を通して「持続可能な社会の実現に向けた消費者力」の育成に取り組んできた。

全国に先駆けて「エシカル消費」を推進してきた徳島県に、全国各地でエシカル消費の推進に取り組む高校生等が集まり、その取組や、メッセージを発信することは、今後の取組の深化とさらなる普及に向け、大変意義があると考え、エシカル甲子園を企画した。

期待される効果

- ・持続可能な社会づくりに挑戦する若者の育成。
- ・高校生等に消費者市民社会の実現に積極的に参画しようとする意識を醸成。
- ・「エシカル消費」の学習を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ・「エシカル消費」の普及・啓発。



高校生等による発表の様子

エシカル甲子園2019～私たちが創る持続可能な社会～

教育委員会 学校教育課

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

- ・本選出場校及び各ブロック予選2位校の取組を紹介したパネルを作成し、本選開催前から商業施設や県庁で展示することで、エシカル消費の取組を発信した。
- ・本選当日には、エシカル消費に関する講演会を実施し、エシカル消費に関する理解を深めた。

事業の効果・成果

- ・「エシカル消費」には様々なものがあり、身近なところから実践できることを広く発信することができた。
- ・高校生同士の交流を図ることができた。

参加者の反応・感想

- ・他校の取組を知ることができた。同じエシカル消費を学ぶ立場として共に切磋琢磨していきたい。（発表者・高校生）
- ・「未来を変えていきたい」という気持ちが伝わってきた。（来場者・小学生）
- ・取り組んでいっしょなマーケットや活動を是非一度見に行きたいと思う。（来場者・中学生）
- ・若い皆さんの力に学んで、私も家族と共に持続可能な社会を目指して暮らしを見直したい。（来場者・一般）
- ・高校在学中の3年間だけで終わらず、現在それぞれで頑張ったことを糧とし、卒業しても推進できる人になってもらいたい。（来場者・学校関係）
- ・高校生が地域課題にこれだけ真剣に向き合っていることに刺激を受けた。（来場者・学校関係）

事業年間スケジュール

令和元年				
4月	6月	8月	9月	12月
参加校募集		●応募書類提出締切	●予選（書類審査）	●本選出場校決定
				●本選開催



高校生等による発表の様子



会場でのパネルの展示



開催ポスター・リーフレット

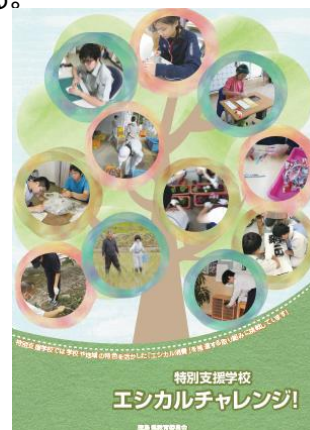
特別支援学校「エシカルチャレンジ」事業 特別支援学校「みんなでエシカル・トライ！！」事業

教育委員会
特別支援教育課

事業内容

特別支援学校の児童・生徒を対象に、令和元年度までは、「特別支援学校のエコステーション化」、「児童生徒の新たな能力開発」という2つの視点から、各特別支援学校の特色や在籍する児童生徒の実態等に応じた「エシカル消費」活動を展開した。令和2年度からは視点を変えて、「特別支援学校ならではのエシカル消費教育の実践強化」、「積極的な地域との連携とエシカル消費の普及拡大」という2つの視点から、活動を展開している。

実施年度	平成30年度～令和元年度、令和2年度
予算	2,500千円
消費者行政強化 交付金活用額	1,250千円
対象	県内の特別支援学校児童・生徒（全学年）



リーフレット

事業の特徴・ポイント

- (1) 特別支援学校ならではの「エシカル消費」教育の実践の強化
- (2) 児童生徒の個性をいかした作品作りを全学部で実践
- (3) エシカル商品や製品を家庭や地域に提供
- (4) エコステーションを核とした、リサイクル活動の実践

⇒地域や保護者等から提供いただいたり、回収に伺いリサイクル資材等を集めたりしている。集まったリサイクル資材を洗浄、分別したり、活用できる物は作品作りに利用したりしている。また、スーパー（株式会社キョーエイ）と障がい者福祉施設が行っているリサイクル活動「はっぴいエコプラザ」と連携して、生徒も一緒にリサイクル活動を行っている。

- (5) 積極的な地域との連携と「エシカル消費」の普及拡大
- (6) 地域企業等と連携した地産地消促進活動
- (7) エシカル作品展の開催



四国霊場札所でのお接待活動で実施した作品展



配布しているエコ作品（しおり等）

期待される効果

特別支援学校では、子どもたちの個々の力を結集し、特別支援学校の強みをいかした「エシカル消費」教育の取組を進めることにより、「エシカル消費」の普及拡大、子どもたちの能力開発や地域貢献を行うことが期待できる。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

エシカル消費を啓発するために、スーパーや四国霊場札所など、多数の人が集まる場所で作品展等を実施した。また、作品展や児童生徒の作品配布を複数回行うことで、効果的に啓発することができた。

全ての学校において回収したりリサイクル資材等を活用した作品作りを進めているが、地域への作品提供にはばらつきがある。各学校の取組を共有し、既に実施している学校との共同実施を行うなど、学校間の連携を進めることで、全ての学校がエシカル商品や製品を地域に提供し、エシカル消費等について更に効果的に啓発できるようにする必要がある。

特別支援学校「エシカルチャレンジ」事業 特別支援学校「みんなでエシカル・トライ！！」事業

教育委員会
特別支援教育課

事業の効果、成果

特別支援学校 4 校において、地元企業等と連携し、新商品開発及び地産地消の取組を実施した。

四国霊場札所が近隣にある特別支援学校 5 校において、リサイクル資材を活用した品をお遍路さんへ配布し、「エシカル消費」の啓発を行った。作品を配布したお遍路さんからは、作品について「素敵な作品ですね」や「活用します」等の声をいただき、児童生徒の意欲が向上した。また、とくしま特別支援学校「きらめきアート展」会場内に「エシカルチャレンジブース」を設けたり、近隣スーパー等と連携し、エシカル作品展を開催したりし、県民への「エシカル消費」啓発を行った。

【地域企業等と連携した地産地消促進活動の取組】

○みなと高等学園 × 株式会社三和『和菓子づくり』

生徒がインターンシップに行った際に、地域での取組を聞き、学校側から6次産業化を連携してできないかと持ち掛けた。実践を進める中で、企業側も、もち米の栽培やおはぎ作りなど積極的に継続して協力してくれている。

○池田支援学校 × 三好素人農事研究會『藍の栽培作業、そば粉のクッキー作り』

傾斜地農法に取り組んでいる団体があり、障がいのある子どもたちと連携した取組ができないかと学校へ連絡があった。現地を見に行ったり、話を聞いたりするなかで、連携した実践につながっていった。障がいのある子どもたちとも積極的に関わっていただいている。

○阿南支援学校 × NPO法人竹林再生会議『竹和紙づくり』

NPO法人が委託事業を受け、放置竹林の整備を行い竹ノ子掘りを実施。そこへ阿南支援学校の生徒が体験に出かけたことがきっかけで、竹和紙作りを一緒に取り組むことになった。障がいのある子どもたちが学校で取り組んだ作業を卒業後もできるようにとNPO法人は精力的に活動をしている。

○池田支援学校美馬分校 × 彩市場かがやき、ワークサポートやまなみ『福祉施設と連携したカフェメニュー』

学校内にカフェを開設する際に、地元のものを提供したいと考え、メニューを外部委託で検討。生徒がインターンシップ等に参加していた福祉施設と連携した。

【特別支援学校児童生徒が作成したエシカル作品】



牛乳パック等を再利用した
カレンダー



廃材を利用したマグネット



かまぼこ板を利用した
スプーン



竹和紙で作ったあんどん

事業年間スケジュール

令和元年									令和2年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学部から高等部まで連続性のあるエシカル作品作り・特別支援学校エコステーションを核としたリサイクル活動の実践											
地域企業と連携した地産地消促進の取組											
エシカル作品の地域への提供による啓発											
エシカル作品展等の開催											

社会的課題に対応するための学校給食の活用事業（文部科学省委託事業）

教育委員会 体育学校安全課

事業内容

本事業は、文部科学省が食品ロスの削減、地産地消の推進及び食文化の継承といった我が国の食をめぐる課題に対して、学校給食を活用した取組を推進するため、実施方法等の仕組みを再構築することを目的に行っている。徳島県が各市町村に希望調査をしたところ、上板町（高志小学校）より企画提案書の提出があったため、上板町を再委託先として実施した。

実施年度	令和元年度
予算	国費3,375千円
消費者行政強化 交付金活用額	なし
対象	上板町（上板町学校給食センター・上板町立高志小学校）
参加人数	高志小学校児童137名、教職員、上板町学校給食センター職員 等
宣伝方法	・文部科学省ホームページに成果報告書掲載 ・食品ロス削減全国大会in徳島において実践事例報告 等



親子クッキングの様子

事業の特徴・ポイント

（１）食品ロス削減

- ①規格外野菜の学校給食への活用と上板産豚等の加工品開発
- ②学校給食センターにおける残さ削減の実践
- ③学校（児童・保護者・給食関係者）における体験・交流学习を基盤にした食育の改善・充実による意識改革
- ④ ICTを積極的に活用した食品ロスを生まないメニュー開発

（２）地産地消推進

- ①地元産「鰻」・「豚」・「野菜」の学校給食への安定的な供給体制確立
- ②児童による地場産物を活用した給食献立メニューの提案と全町給食への提供
- ③栄養教諭・町保健師・地産地消レストラン食育担当者による地場産物を活用した給食メニュー開発と学校給食での提供
- ④親子での調理体験、ライブキッチン、地産地消体験ツアー、各種方法で地場産物の良さを児童・生徒・保護者に積極的に広報し、啓発を行う。

期待される効果

- ・学校給食における地産地消の推進と食品ロス削減。
- ・児童へのエシカル消費の普及啓発。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

- ・拠点校の実践を町内全体の小中学校、徳島県内、全国の小中学校に普及させる方策の検討。
- ・高志小学校が核になり各種の団体と連携して持続可能な組織を構築し、コスト面でも採算が取れた規格外農畜産物の加工、学校給食への活用を継続すること。さらに、全国で上板町の実践に共感し、同様の実践を行う自治体を増加させるため方策の検討。
- ・小学校、中学校における食育の中に地産地消の推進、食品ロスの削減に関する内容を位置づけ確実な授業実践ができる体制をつくること。
- ・成果報告書を県内の小・中学校に配布し、各都道府県教育委員会、政令指定都市教育委員会にも送付。
- ・県教育委員会主催の「学校食育推進研修会」にて上板町の取組を発表。

社会的課題に対応するための学校給食の活用事業（文部科学省委託事業）

教育委員会 体育学校安全課

事業の効果・成果

【給食センターにおける成果】

- ・規格外農畜産物の学校給食での活用回数：平成30年度0回→令和元年度15回。
- ・学校給食センターにおける残さ削減（月平均）平成30年度524kg→令和元年度29.4kg。
- ・学校給食残食の削減（1人当たり1日平均）平成30年度30.54g→令和元年度19.13g）。

【給食センターにおける成果】

学校での様々な活動を通して、子どもたちに実際の生活の中で、食品ロスを削減しなければならないという意識が芽生え、自分たちができることから始めようと、給食を残さず食べる姿勢も日常的に見られるようになった。さらに、上板町全体の給食残食率でも、前年度と比較するとかなり減少しており、モデル校だけでなく町内全体に取組が広がっている。

家庭における食品ロス削減、地場産物の活用状況は、アンケートの当初設定目標値が高く（2回目は1回目調査より30%増と設定）達成できていない内容が多いが、多くの質問項目で肯定的な回答の割合が増えている。

【肯定的回答が増えた保護者アンケート内容】

- 買い物は使う量や食べられる量を考えて購入している。
当てはまる割合 令和元年6月調査93%→令和元年11月調査97%
- 食品ロスを出さないように食材を上手に食べる工夫をしている。
当てはまる割合 令和元年6月調査83%→令和元年11月調査90%

参加者の反応・感想

- ・全国で食品ロスがあるので、上板から「こんなことをしている」「こんなことができる」ということを発信していきたい。
- ・自分たちでも「規格外の農産物を処理・加工できたらな」と思うようになった。例えば、規格外の野菜でレトルトやフリーズドライの災害非常食を作れば、地産地消と食品ロス削減の両方が達成できるのではないかな。
- ・将来、食品ロスを減らすための6次産業に関わりたいと思っている。
- ・まだまだ知られていないおいしいものをどうにかしてアピールするためにも、自分たちで地産地消の料理をもっと考えていきたい。

事業年間スケジュール

令和元年						令和2年	
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回徳島県推進委員会開催 ● ライブキッチン ● 第1回上板町推進委員会 ● 地産地消体験ツアー 						<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回徳島県推進委員会 ● 第2回上板町推進委員会 ● 第3回上板町推進委員会 	

事業終了後も引き続き取り組んでいること

高志小学校では、本来であれば規格外野菜の取組を令和2年度も継続する予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策による休業のため実施できなかった。そこで、4年生が総合的な学習の時間に、畑を借り、作物を育てて、食品ロスを削減するためにどのようなことができるかを考えて実践するという取組を行っている。

上板町学校給食センターでは、引き続き地場産物活用と調理残さ削減に取り組んでいる。

また、令和2年度より栄養教諭の実践報告書に食品ロス削減について記載する欄を設け、県内全域での食品ロス削減に対する意識の醸成を図っている。

地域力×女性力「エシカル消費」推進事業

教育委員会 生涯学習課

事業内容

幅広い世代を対象としたエシカル消費の普及、啓発、定着に向けて、県内全域で活動する社会教育関係団体である一般財団法人徳島県婦人団体連合会（以下「県婦連」という。）と連携し、啓発冊子「エシカルノート」を作成したほか、地域における啓発リーダー「エシカルパートナー」を育成し、県内各地でパートナーによる講習会等を行った。

実施年度	令和元年度
予算	1,500千円
消費者行政強化 交付金活用額	750千円
対象	学生・一般
参加人数	各講習会・講演会：1,048名（延べ）
宣伝方法	県内関係機関に「エシカルノート」配布、 ホームページに掲載（ダウンロード可能）



エシカルノート（表紙）

○エシカルノートの編集

エシカルノートは、県婦連会員の6名が編集委員を務めた。大学教授の助言を受けながら、地域の特色をいかした伝統料理や伝統文化を取り入れた分かりやすい普及啓発冊子を作成した。

事業の特徴・ポイント

- ・社会教育関係団体と連携してエシカル消費を身近に捉えられる内容とした啓発冊子「エシカルノート」を発行し、地域住民に配布し、啓発を行う。
- ・地域での普及・啓発のリーダー（エシカルパートナー）を養成する講習会を開催する。
- ・県内各地域においてエシカルパートナーによるエシカルノートを活用した講習会等を開催する。
- ・広く県民に対しエシカル消費に関する講演会を開催する。

期待される効果

持続可能な社会の実現に向けて地域における「エシカル消費」を定着させるため、広いネットワークを持ち、消費生活において重要な役割を担っている女性の力を活用し、学校とも連携しながら地域社会へのエシカル消費の普及啓発を行う。



エシカル料理教室
（地域の高校と連携）

エシカル消費を学ぼう

エシカル消費ってなに？

エシカル消費とは、倫理的・社会的・環境的・経済的・文化的な価値を重視し、持続可能な社会の実現に貢献する消費行動のことです。エシカル消費は、人々の健康や安全、労働者の権利、動物の権利、環境保護、社会正義、文化の継承など、さまざまな価値を追求する消費行動です。

フェアトレードとは？

フェアトレードとは、「公正な貿易」という意味です。生産者や労働者に適正な対価を支払うこと、労働環境の改善、児童労働の禁止、環境保護など、社会的・環境的な価値を追求する消費行動です。

オーガニックとは？

オーガニックとは、化学合成の農薬や肥料を使用しない、自然の力を活かした生産方法で生産された食品のことです。

ローカル産品とは？

ローカル産品とは、地元で生産された食品やサービスのことです。地元産品を購入することで、地域の経済を活性化し、生産者の生活を支援することができます。

フードマイレージとは？

フードマイレージとは、食品が消費される場所から生産される場所までの距離のことです。フードマイレージを短くすることで、輸送に伴うCO2の排出量を削減することができます。

Ethical Cooking

エシカルな食品を取り入れてお料理を作りませんか？ 婦人委員会、自産のエシカル料理をご紹介します。

Recipe 1 向風肉

【材料】
肉 400g
塩 少々
醤油 少々
酒 少々
おろし金 少々
おろし金 少々

Recipe 2 和風肉

【材料】
肉 400g
塩 少々
醤油 少々
酒 少々
おろし金 少々
おろし金 少々

Recipe 3 和風肉

【材料】
肉 400g
塩 少々
醤油 少々
酒 少々
おろし金 少々
おろし金 少々

Recipe 4 和風肉

【材料】
肉 400g
塩 少々
醤油 少々
酒 少々
おろし金 少々
おろし金 少々

Ethical Question（あなたはどちら？）

「Ethical Question（あなたはどちら？）」にトライしてみよう！

ルールはとっても簡単。
いくつもの質問について、自分だったらどうするか？と考えてほしいのです。そして、**「YES」**か**「NO」**のカードを一枚ずつ持ちます。

1. 付録のカードを順番に沿って、はさみで切り取りましょう。
2. 「YES」と「NO」のカードを一枚ずつ持ちます。
3. 初めに質問を読み上げて、自分の意見に近い方のカード（YESまたはNO）を
紙の上に貼る。貼る順番は問いません。貼る順番は問いません。
4. 「YES」の質問は、貼る順番は問いません。貼る順番は問いません。
5. 意見が同じカードでも、違う場合でも、どうしてその意見になったのかを話し合っ
てください。
6. このクイズに答えはありません。
自由に意見を出し、それぞれの価値観を共有しながら「エシカル消費」について、しっ
かりと話し合ってみてください。

[Question]

- マイボトルを愛用しています。
- 夕食が残った食料、もったいないから捨ててしまいます。
- 旅行先で買ってきたお土産、お土産屋さんに売ります。
- 買付期間は絶対厳守。1日でも遅延したら厳禁します。
- 地元の商店街を愛用したいけど、ついついネット注文をしてしまいます。
- リサイクルも良いとは思いますが、新品を選んで購入します。
- マイバッグを必ず持ち歩きます。
- 買い物に行く前にはエコバックの中身をチェックします。
- 買付はエコバックで買付ます。
- 携帯電話を新しくしたいけど、古いものは思い入れがあるからリサイクルには出しません。

地域力×女性力「エシカル消費」推進事業

教育委員会 生涯学習課

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

エシカルノートの内容は、「エシカル消費」の基礎事項や認証ラベルの解説のほか、家庭での消費生活で中心的な役割を果たしている女性の知恵をいかした地産地消などの料理の紹介、また意見を交わしながらエシカル消費について学ぶカードゲームなど地域住民が楽しく学べるように編集した。

本事業の成果を踏まえ、エシカル消費に関する取組を更に発展させ、SDGsの達成や持続可能な社会を目指して、今後も社会教育への地域人材の活用や、地域と学校が連携・協働した多様な取組により、地域総ぐるみの教育を実現し、地域の教育力向上や地域の活性化を図りたい。

事業の効果・成果

女性やアクティブシニアの潜在力を活用し、更に学校、エシカル消費やエコ活動の実践者とも協力しながら、幅広い世代の地域住民がエシカルの理念を学んだり、消費等の行動と地球環境・社会への影響について考えたりする機会を提供することで、地域社会や次代を担う若者への普及・啓発を推進することができた。

講習の参加者の中では、エシカル消費にとどまらず、更にSDGsへと関心を広げていく動きが見られた。

参加者の反応・感想

【各地域における講習会】

- ・「エシカル」の言葉さえ知らなかったのに、エシカルノートで楽しく学ぶことができた。
- ・言葉は知らなかったけど、普段からしていることもあることに気付いた。これからも継続し、広げていきたい。
- ・認証ラベルの付いたチョコレートや紅茶を頂きながら、それが何につながるのか理解できた。これからも関心を持って買物をしたい。



【ワークショップ】

- ・自分たちが使うモノの最終的な行き先や使われ方を想像し、考えて日々の生活をエシカル消費につなげたいと思う。
- ・海のゴミも場所によって全く違っていたので驚いた。・「炭素循環」ということに意識がなかったので、良い機会となった。

【エシカル料理教室】

- ・地元の食べ物が想像以上に多くて驚いた。・海外の高校生を、地域の食材でもてなすことができ、交流が深まった。

事業年間スケジュール

令和元年				令和2年	
4月	7月	8月	9月	1月	2月
 エシカルノート編集		●エシカルノート配布			
		●エシカルパートナー養成講習会開催			
			 エシカルパートナーによる各種講習会開催		
				●エシカル消費に関する講演会開催	

障がい者いきいき活躍就労促進事業

保健福祉部 障がい福祉課

事業内容

本事業は、障がい者就労支援施設にて製造された製品（以下「就労製品」という。）のブランド力向上を目的として、就労製品について「awanowa」（あわのわ）という共通ブランドを立ち上げ、県内の障がい者就労支援施設と共同した就労製品の販売会の実施、専門家によるブランド力向上に向けた研修会を実施している。

徳島県の特産品や伝統産業をいかしたモノづくり、利用者の特性をいかしたモノづくり、支援員と利用者が一緒に取り組むことができることを考慮しつつ、工賃向上に貢献できる徳島らしい就労製品づくりに取り組んでいる。

実施年度	平成30年度～継続中
予算	17,500千円
消費者行政強化 交付金活用額	なし
対象	県内の障がい者就労施設
参加人数	販売人数：28名 展示関係者数：18名
宣伝方法	就労製品の販売会の際に チラシ配布、ポスター掲載等



awanowaロゴマーク

フェイスシールドの台紙を
利用した啓発

事業の特徴・ポイント

障がい者就労支援施設で行っている作業種ごとに部会（食品部会、印刷部会、清掃部会など）を設置し、研修会や新商品の開発などを行っている。また就労製品について「awanowa」という共通ブランドを立ち上げ、既存商品の見直し、商品力アップのための技術向上や、パッケージング、販売方法に至るまで、提案や指導を行い、製品のブラッシュアップと広報活動を積極的に行っている。

期待される効果

障がい者就労支援施設の商品力アップや、障がい者の方の働く意欲の向上、県民のエシカル消費の認知度向上を図ることを目的としている。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

販売会の実施の際には、各就労支援施設の紹介を併せて行ったり、障がい者の方が対面販売やワークショップを行ったりすることで、直接消費者と触れ合う機会を持ち、障がい者の社会参加につながるができる機会を設けている。さらに、エシカルチラシを作成し、販売会においてチラシ配布、POP設置、接客での説明やクリアファイルプレゼント等を行って啓発している。

また令和2年度からは、「未知への挑戦～とくしま行動計画」に基づき障がい者就労支援協議会（以下「就労協」という。）のSDGs実装へ向けて、ポスターの作成・展示、マスク等製作事業（マスク・フェイスシールド）の台紙・帯等に、SDGsの重点取組目標を明記する等の意識啓発に努めた。

今後は、エシカルを切り口に持続可能な目標を、就労協及び加盟施設にも定着させる取組を目指したい。

障がい者いきいき活躍就労促進事業

保健福祉部 障がい福祉課

事業の効果・成果

県内の障がい者就労支援施設が共同で開催している販売会やマルシェでは、多くの商品の販売につながっていることはもちろん、就労製品が多くの県民の目に触れたり、障がい者の方が対面販売を行ったりすることによって、エシカル消費への理解促進、障がい者の社会参加の機会創出にもつながっている。

参加者の反応・感想

【令和2年2月にイオンモール徳島で実施した「ナイスハートバザール徳島」でのアンケート結果】

- ・いろいろなお店があって楽しい。・市販にはない工夫されたオリジナルなお菓子があり、楽しいし、おいしい。
- ・店員が元気で良かった。・このような機会をもっと増やしてほしい。・地元を盛り上げるのに必要。
- ・いろんな施設を知れた。・就労支援の店もあり興味を持った。・障がい者の方の就労を知ってもらえる機会が必要と思った。

事業年間スケジュール

平成30年		平成31年	令和元年		令和2年		
5月	6月	1月	5月	6月	7月	8月	9月～
●消費者まつり出店		●消費者まつり出店					
●県庁パネル展示				●県庁パネル展示			
		●城西高校にて「エシカル消費」 リーディングスクール講演		●エコバックマルシェ			
				徳島商業高校コラボ商品開発			

徳島商業高等学校との連携

令和元年度のオリパラ基本方針推進調査事業における活動の際、当時の障がい福祉課障がい者活躍推進室と徳島商業高校が、「パラリンピックを受け入れるホストタウンの拡充等」への取組として、高校生と障がいのある方で「パラリンピックに向けて何か連携できないか」と協議を始めたのがきっかけで、令和2年度に同校とのコラボ商品開発を計画した。

高校生のアイデアと障がい者施設の技術協力のもと、パラリンピックに向けたキャンプ誘致国のおもてなしスイーツ開発を行っており、同校が支援するカンボジアのヤシ砂糖・カシューナッツを使用した「パームシュガーパウンドケーキ」や、ジョージアの郷土菓子である「ハチャプリ」「チュルチヘラ」を試作し、令和2年12月の徳商デパート（オンライン）に向けて共同開発をし、販売をしている。また、来年夏に開催予定のパラリンピックでは、ジョージアの選手との懇親会で提供予定である。

県庁でのパネル展示

就労協の取組を紹介するパネル展示を行っている。設立以降、県との協働により取組を行っている「awanowaブランド」の立ち上げによるスイーツや藍染め、雑貨などの商品開発、農福連携、エシカル活動などをそれぞれの内容に沿ってパネルやチラシ、リーフレットなどを活用し展示することで、県職員や県民の方へ啓発を行っている。



パネル展示の様子

小中学校の課外学習モデル構築事業

企業局 経営企画戦略課

事業内容

本事業は、県内の小中学生を対象として、自然エネルギーの活用やダム役割、森林の恩恵に関する理解を促すことを目的として、「川口ダム自然エネルギーミュージアム」を利用した課外学習モデルを構築し、校外学習及び遠足での活用を推進している。また、エシカル消費である「環境に配慮した消費」に、再生可能エネルギーの利用が該当すると考え、本事業を推進している。

実施年度	平成30年度～継続中
予算	補助金1,000千円（各年度）
消費者行政強化 交付金活用額	なし
対象	平成30年度・令和元年度：阿南市及び那賀町の小・中学校 令和2年度：徳島県内の小・中学校及び特別支援学校
参加人数	166名（平成30年度） 216名（令和元年度）
宣伝方法	小・中学校の校長会での周知 各学校への訪問



川口ダム見学の様子

事業の特徴・ポイント

- 子どもたちが、川の恵みである水力発電の仕組みを分かりやすく楽しく学ぶことで、自然エネルギー及び科学技術への関心を深め、ダムの役割や森林からの恩恵について理解することを目的としている。
- 各学校がクラス単位以上で実施する校外学習及び遠足で川口ダム自然エネルギーミュージアム等を訪れる場合はバス代の半額を補助金として交付する。

●川口ダム自然エネルギーミュージアム の概要

発電と環境の関わりや、科学技術における未来への関心を高め、自然エネルギーの普及促進、次代の技術者育成に寄与するため、平成28年7月に川口ダム横に整備。

「自然エネルギー」や「デジタルアート」のほか、最先端技術の「コミュニケーションロボット」や「水素燃料自動車」などを実際に「見て」、「触れて」、「感じて」楽しみながら学ぶことができる。

期待される効果

「川口ダム自然エネルギーミュージアム」等を小中学校の環境学習の場として、遠足や出前授業に活用し、自然エネルギーの活用やダムの役割、森林の恩恵に関する理解を促す。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

水力発電を始めとした自然エネルギー（再生可能エネルギー）と火力発電等を比べて、それぞれのメリット・デメリットを理解した上でどちらを選択していくのかを児童生徒に考えてもらうようにした。

【参加者を増やすための工夫】

- 校長会等で事業の説明を行い、小中学校の遠足、課外学習の場として検討してもらえるよう働き掛けた。
- 令和元年度までは阿南市及び那賀町の小中学校が対象であったが、令和2年度からは県内全ての小中学校及び特別支援学校を対象を広げた。

徳島木育サミット

農林水産部 スマート林業課プロジェクト推進室

事業内容

平成31年2月に西日本初となる「全国木育サミットin徳島」を開催し、100を超える企業、団体、個人の皆様の賛同の下「木育共同宣言」を行うなど、木育の機運を醸成してきた。これをレガシーとして継承し、更に発展するため、「徳島で木育を語ろう、知ろう、体感しよう」をテーマに、「第1回徳島木育サミット」を開催した。また、東京おもちゃ美術館の木育キャラバンや木を使ったワークショップも同時開催した。

日時	令和元年11月10日
予算	1,692千円
消費者行政強化 交付金活用額	なし
対象	制限なし
参加人数	約500名
宣伝方法	ホームページ掲載 チラシ配布 等



パネルディスカッションの様子



第1回木育サミットチラシ

期待される効果

県産材を使用することもエシカル消費（地産地消）と捉え、「木にふれあい、木に学び、木でつながる」木育の取組を通じて、木を生活の中に取り入れ、使うことで、本県の豊かな森林を未来へ継承する。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

メイン会場では、木育に関する講演や県内の木育活動者によるパネルディスカッションのほか、親子向けの木育コンサートを実施した。また、別会場では木のスプーンづくり体験や、木製品の展示販売、多くの木のおもちゃで遊べる木育広場も設け、家族で楽しんでもらえるよう実施した。

参加者の反応・感想

参加者からは「教育や保育の場で木育を拡げてほしい」、「学習あり、参加あり、遊びありとバラエティーに富んでいたのが楽しかった」との意見があった。

第2回木育サミットの様子

- ・第1回と同様、「徳島で木育を語ろう、知ろう、体感しよう」をテーマに、「第2回徳島木育サミット」を那賀町で開催、リモートでも県内外から多くの方が参加した。
- ・「徳島木のおもちゃ美術館（仮称）にかけける姉妹館・自治体からの期待」をテーマにトークセッションを行ったほか、徳島県初のウッドスタート宣言のまちとして、「県産材利用拡大を目指して建築に木育の輪を広げる」をテーマにパネルディスカッションを行った。
- ・森林のある地方と人が多い都市が、「木育」を通じてつながり、その地域にある「ヒト」や「モノ」などあらゆる資源を活用し、地域課題を木育を通じて解決していくためのアイデアや課題などを共有した。



第2回木育サミットチラシ

食品ロス削減全国大会 in 徳島 開催事業

危機管理環境部 環境首都課

事業内容

本大会は、平成29年度から全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会が、食品ロスを減らしていくため、消費者を含めた食品ロス削減に取り組む関係者が一堂に会し、フードチェーン全体で連携して取り組んでいくことを共有するという趣旨の下開催している。大会の開催に当たり、協議会が開催地を募集しており、令和元年度は徳島県と徳島市（市民環境部市民環境政策課）の共催で事業を実施した。また、徳島大会では、開催地の徳島市における最大級のショッピングモールであるイオンモール徳島でプレイベントを行い、広報活動を行った。

実施年度	令和元年度
予算	7,752千円
消費者行政強化 交付金活用額	なし
対象	全ての個人、団体
参加人数	600人
宣伝方法	全国自治体へのチラシ配布、 ホームページ掲載、ラジオ等



トークセッションの様子

事業の特徴・ポイント

- ・食品ロス削減推進法制定後「初」の全国大会
- ・都道府県主催では「初」となる全国大会
- ・大会のサブタイトルに「エシカルでひろげよう」を掲げ、徳島県が食品ロス削減をエシカル消費の中核と位置付け、消費者行政新未来創造オフィスと連携し取り組んだ「食品ロス削減に関する実証事業」の成果を発信した。

期待される効果

食品ロス削減に関する取組事例の発表やパネル展示を通じ、企業やフードバンク、学校現場（上板町立高志小学校）における先駆的な取組を発信するとともに、トークセッションでの活発な議論により、「食品ロス削減」に対する意識の醸成を図る。



大会チラシ

大会宣言を行う学校の活動を紹介します



徳島市佐古小学校

佐古小学校では給食を一度全部つぎ分け、一人分の食事を量を知り、残食を減らそうとする活動「たべりんピック」を実施しています。この活動により、成長に必要な量を食べ、好き嫌いを減らそうとがんばっています。



徳島市南部中学校

3年生は、1学期から「SDGs」について考える学習をしています。自分たちの「未来」を考え、自分にできることを見つけ、行動していきます。責任ある社会の一員となることを目指してがんばっています。



徳島文理高等学校

私達は「MOTTAINAI」をキーワードに身近な生活の中でできる取り組みを考案しました。余剰食材の有効活用や冷蔵庫の「見える化」また啓発活動では標語や団扇を作成配布しました。どうぞ皆さんも、Take Action!

学校での取組（大会パンフレット）

食品ロス削減全国大会 in 徳島 開催事業

危機管理環境部 環境首都課

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

- ・大会サブタイトルを「エシカルでひろげよう」とし、食品ロス削減がエシカル消費の一つであることをアピール。
- ・エシカル啓発資材の配布の実施。

参加者の反応・感想

【大会アンケート結果】

○大会満足度

全回答者の95%が「大変よかった」「まあまあよかった」と回答。

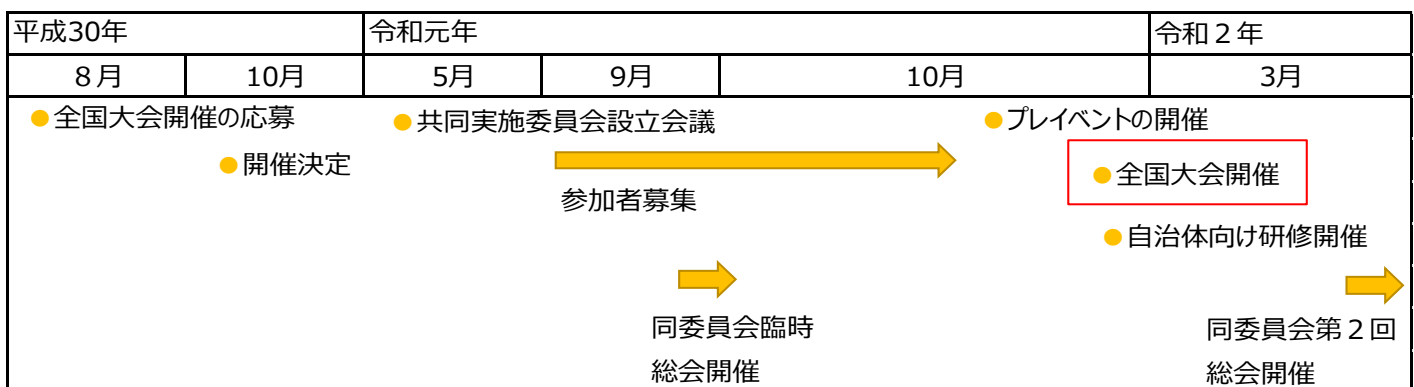
○今後取り組んでみようと思うこと

「買いすぎない・使いすぎないようにする（81%）」や「消費・賞味期限に注意する（65%）」など、消費行動に関する項目に対して高い意欲がみられた。

○自由記入

・個人でも取り組める事の多さに気づいた。・家庭から地球へと意識が変わった。・他業界の活動を知ることができた。

事業年間スケジュール



食品ロス削減全国大会の開催に応募したきっかけ

- ・「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例」に食品ロス削減を位置付けている。
- ・平成28年度に「第12回3R推進全国大会」を開催し、ノウハウの蓄積や「拳県一致」体制が構築されている。
- ・県庁内に消費者行政新未来創造オフィスが開設されており、消費者庁の実証フィールドとしての役割のほか、消費者行政の観点から講演会や関連イベントを効果的に実施する環境が整っている。
- ・平成29年度に県庁内に設置した「食品ロス削減に向けた取組に向けた取組タスクフォース」により環境、消費生活、農林水産及び教育関係の連携体制を構築、徳島市においても同様の体制が整備されている。

大会の開催による担当課での気づき

- ・幅広い年代や業種・団体からの取組事例の紹介や発表を通じて食品ロス削減への機運の醸成が図られた。
- ・大会開催を機に、消費者・事業者双方に向けた取組を更に加速させる。

エシカル消費普及促進事業

鳴門市 市民協働推進課

事業内容

「エシカル消費」という言葉が浸透しつつあるなか、市民の多くはまだ言葉の意味や、言葉自体を知らない状況にあると考え、イベント等で配布する啓発グッズや名入れパンフレット等を作成し、「エシカル消費」について知るきっかけとしてもらい、最終的には日常生活の中で「エシカル消費」を実践する市民を増やすことを目的に、啓発グッズ等の配布事業を実施している。また、令和2年度には本事業とは別に、更にエシカル消費を意識する機会を増やすことができるように、協力を頂いた市内スーパー等9店舗に、エシカル消費（地産地消）啓発ポップを設置してもらっている。

実施年度	平成30年度～継続中
予算	200千円（令和元年度）
消費者行政強化 交付金活用額	83千円（令和元年度）
対象	主に鳴門市民



啓発ポップ

啓発グッズ
(エコバッグ・パンフレット)

事業の特徴・ポイント

グッズやパンフレットは手に取りやすいため、抵抗なく受け取ってもらうことができ、周知がしやすい。また、あらゆる場面を通じて配布することが可能なため、広く周知することができる。

期待される効果

- ・「エシカル消費」という言葉を知ってもらうこと。
- ・「エシカル消費」の意味を知ってもらい、日常生活の中で「エシカル消費」を実践する市民が増えること。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

【エシカル消費普及促進事業】

平成30年度から事業を始めたが、当時はまだ「エシカル消費」という言葉自体が普及していないと感じた。そのため、内容を細かく説明するのではなく、単語自体を知ってもらう活動から始めた。令和元年度には名入れパンフレットを作成し、エシカル消費は「日常の簡単なおとこから始められる」ということを伝えられるよう、市内のイベントや出前講座、交通安全教室といった地域での集会を通じて広く配布した。エシカル消費は、市民の実生活において取組に対する効果を直接的に感じるのが難しいため、継続して周知することが大切と考える。

【エシカル消費啓発ポップ設置】

エシカル消費にはサービスも含まれるが、消費者による日々の買物が大きな比重を占めており、その中でも買物において実践しやすいエシカル消費が「地産地消」と考えた。そこで、日常的に多くの人が買物に訪れるスーパーや地場商品を扱う直売所にポップを設置してもらえよう依頼した。1枚のポップにすることで買物の際に目に付き、地産地消が社会貢献（エシカル消費）につながることを知ってもらえるように工夫した。

事業の効果、成果

【食品ロス削減に関する講演会時の「エシカル消費」についてのアンケート結果】

- ・「エシカル消費という言葉を知っているか」の問いに、「知っている」「聞いたことはあるが言葉の意味は知らなかった」の回答が53%(H30)から87%(R2)に上昇した。
- ・「エシカル消費に対して興味があるか」の問いに、「非常に興味がある」「ある程度興味がある」の回答が87%(H30)から93%(R2)に上昇した。

学校給食における地産地消の推進事業 Awa産Our消Myメニューコンクール事業

阿波市学校給食センター

事業内容

「県下有数の農業地域」という特徴をいかし、子供たちに新鮮で安全・安心な給食を食べてもらうため、学校給食において、「Awa産Our消」を合言葉に、阿波市産の農産物を積極的に使用し、地産地消の推進を図っている。

また、小中学生への食育活動の一環として給食メニューコンクールを実施。阿波市産の農産物を2品以上使用したレシピを募集し、入賞作品の一部を学校給食等に取り入れることで地産地消への関心を高めている。

事業名	学校給食における地産地消の推進	Awa産Our消Myメニューコンクール
実施年度	平成27年度～継続中	平成28年度～継続中 (令和2年度については、新型コロナウイルスの関係で冬休みを利用して募集を行う予定)
予算	—	約18千円(賞状・副賞代)
消費者行政強化 交付金活用額	—	なし
対象	阿波市内の小・中学校 (一部の幼稚園・認定こども園)	阿波市内の小・中学生
参加人数等	令和2年度は約3000食(1日当たり)の給食を提供	【応募数】(応募可能数は1人1点まで) 平成28年度: 343点、平成29年度: 556点 平成30年度: 518点、令和元年度: 809点
宣伝方法	給食だよりやHPに給食の写真や使用した阿波市産農産物を掲載し、給食センターにおける地産地消の取組を紹介	各小中学校の協力を得て、学校から小・中学生へ周知・コンクールの結果はHPに掲載

事業の特徴・ポイント

- ・「阿波市学校給食地産地消推進計画」に基づき、JA等関係機関と連携し学校給食における地産地消に尽力。
- ・学校給食用物資納入については、毎月「阿波市学校給食農産物供給協議会」※を開催し、関係機関と阿波市産農産物の栽培・収穫状況を確認しながら調整を行っている。これにより、児童・生徒には新鮮で安全・安心な給食を提供することができるとともに、給食では大量の農産物を使用するので地域の生産者支援につながる。

※JA、阿波市学校給食センター、阿波市教育委員会学校教育課、阿波市産業経済部農業振興課が出席

- ・メニューコンクール事業は食育活動の一環として取り組んでいると同時に、メニュー募集に当たっては、阿波市産の農産物を必ず2つ以上使用した学校給食向けのメニューであることとしており地産地消への関心を高めている。

期待される効果

- ・阿波市で生産されたおいしい農産物を学校給食で提供することで、学校給食においてもエシカル消費を行っていくことができる。
- ・給食を通じて子供たちに地場農産物を周知でき、子供たちから各家庭に地産地消の取組を広げることができる。
- ・子供たちが自らメニューを考案することで、阿波市の豊かな自然で育ったおいしい農産物の魅力を発見でき、興味を持ってもらうことで地産地消の推進へと結びつけることができる。



阿波市は「県下有数の農業地域」です。この特徴を生かし、子どもたちに新鮮で安全・安心な給食を食べてもらうため学校給食では、「Awa産Our消」を合言葉に、阿波市産の農産物を積極的に使用し、高い地産地消率を誇っています。身近な食材を使うことで、地域農業への理解を深め、阿波市農業の活性化を図っています。

8・9月の給食には、タマネギやナス、トマト、スタチなど阿波市産の農産物がたくさん使用されています。

また年に数回、阿波市に実習農場のある古野川高校の生徒が作った、野菜や果物も学校給食の食材に活用しています。

地産地消の推進

阿波市の広報紙での紹介

学校給食における地産地消の推進事業 Awa産Our消Myメニューコンクール事業

阿波市学校給食センター

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

【学校給食における地産地消の推進】

- ・入札による青果物納入業者の選定についても地産地消の枠を設ける工夫をしている。
- ・献立作成時には前年度の農産物収穫状況等を確認しながら、可能な限り阿波市産の食品が給食で使用できるように努めている。
- ・地産地消率をより向上させるためには、関係機関との連携が更に必要であると感じている。

【Awa産Our消Myメニューコンクール】

- ・入賞作品の一部を実際の学校給食で提供することで、地産地消を小・中学生に啓発する機会を作っている。
- ・アエルワ食堂※で入賞作品の一部を提供したり、広報誌及びHPに入賞作品の掲載を行い、一人でも多くの人にエシカル消費について触れてもらうきっかけとなるように工夫している。

※阿波市交流防災拠点施設「アエルワ」内の食堂、阿波市や徳島県の地域食材や無農薬・減農薬の食材を積極的に活用した健康に良いヘルシーメニューを提供している

- ・「エシカル消費」というワードを知ってもらうまでにはまだ至っていないと思われるため、今後、「エシカル消費」という言葉の啓発にも努めていきたい。

事業の効果・成果

○地産地消率

平成29年度：42.4%、平成30年度：43.2%、令和元年度：55.5%
 （地産地消率については重量ベース。精白米を除く。精白米の地産地消率は100%）

○Awa産Our消Myメニューコンクール応募数

平成28年度：343点、平成29年度：556点、平成30年度：518点、令和元年度：809点

事業スケジュール（Awa産Our消Myメニューコンクール）

令和元年			
7月・8月（夏休み期間）	9月	10月	11月
メニュー募集	●一次審査	●二次審査	●表彰式 入賞作品を学校給食やアエルワ食堂で提供



第4回「Awa産Our消Myメニュー」コンクール



銀

サマーベジドーフ from awa city



阿波中学校2年
坂東 愛望さん

金

阿波ベジたっぷりスープ



市場中学校1年
瀬野 佳乃子さん

銅

阿波ベジどっさり土柱カレー



土成中学校2年
森 生成さん



エシカル消費普及事業

美馬市 暮らし・人権課

事業内容

本事業は、市民の方にエシカル消費について知ってもらい、また誰かに伝えてもらうことで、市民のエシカル消費に対する機運を醸成し、行動につなげてもらうことを目的に『みんなで学ぼう！エシカル消費～人を「思いやる」消費をはじめませんか～』と題し、講演会を開催した。

日時	令和2年2月16日
予算	722千円
消費者行政強化 交付金活用額	350千円
対象	主に美馬市民
参加人数	170名
宣伝方法	市内小中学校及び認定こども園、 市役所関係機関等にチラシ配布



高校生の発表の様子

事業の特徴・ポイント

- ・エシカル消費の専門家を招いた講演会開催に合わせ、市内小学校での総合学習（環境学習）及び高等学校エシカルクラブでの活動を校外で発表する機会として参画を依頼した。
- ・次年度事業への参考とするため、参加者アンケートを実施した。アンケートには、普段の生活でできることに気づき、実践できる取組を考えるきっかけとなるよう「マイ・エシカル」を選択する項目を設定した。

期待される効果

持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた地方公共団体の取組の一つとして、参加者のエシカル消費に対するイメージ（カタカナ言葉で難しい）を払拭するとともに、若い世代の活動を知り、自分たちができる行動（身近で気軽に、できることから実行）という理解を促し、「エシカル消費」に関心を持つ市民を増やす。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

イベントが少なく、比較的参加しやすい時期の日曜日午後での開催とし、また、講演会だけでなく、地域内の児童・生徒の取組の発表も行った。さらに、平日参加が難しい年代（30代～50代）への参加を促すため、小中学校保護者への周知を試みた。しかし、他の市民への周知が不十分となり、目標参加者数に届かなかった。講演会を機に関心を持った市民に対する継続的な取組、より幅広い世代の方に関心を持ってもらうための事業手法の検討が必要。

参加者の反応・感想


「エシカル消費」という言葉を初めて聞く参加者もいたようだが、参加者アンケートでは「よく分かった」と回答した方が多く、満足度が高い内容であった。

基調講演に関しては、講師が持つ熱意やメッセージ性の高さが参加者への問題提起や意識啓発につながり、できることから自らが行動を起こさなければならないとの感想が多かった。一方、年少者や関心を持っていない層からは「難しい」と評価されており、こういった層へのアプローチが課題となった。

エシカル消費普及事業

美馬市 暮らし・人権課

事業年間スケジュール

令和元年			令和2年	
夏頃	11月	12月	1月	2月
 講師選定作業	● 講師確定・交渉 開催日時決定・会場手配等	● 事例発表団体への協力依頼 チラシ案作成・啓発物品選定	● 当日スケジュール作成・会場打合せ チラシ印刷・啓発物品発注	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;">● 講演会開催</div> ● アンケート集計

事業実施のきっかけ

消費者行政職員研修でエシカル消費を学んだ。言葉は新しいが、特別なことではなく誰にでもできる（実践している）ことであり、市民に知ってもらう機会の提供が必要と感じた。

今後の取組について

今回の講演会を機に「エシカル消費」に関心を持った市民等が理解を深めるため、また新たな市民への普及啓発を目的として、次年度では、様々なテーマを設定したワークショップ（30人程度単位）の開催を計画している。ワークショップのテーマ設定資料として、市民ニーズを把握するため、次の質問を行った。

①「マイ・エシカル」への誘導

「エシカル消費」に関する意識を高めるため、配布資料のパンフレットで紹介されている実践事例を提示し、できること（やってみようと思うこと）を選択してもらい、参加者の関心を把握するとともにフィードバックを図った。

②ワークショップやイベントへの参加意向について

回答者の92%が「参加してみたい」と選択し、内容としては「食品ロス削減につながる料理方法を学ぶイベント」を希望する回答が多かった。

新年度準備 エシカル消費普及事業

みんなで学ぼう! エシカル消費

～人を「思いやる」消費をはじめてみませんか～

日時 今年度2月16日(土) 14:00～16:00
(13:30開場)

場所 美浜市地域交流センター **ミライズ** 市民ホール
(美浜市旭大南大学西側西116番地)

入場無料 先着300名 グッズ配布

毎日の生活の中で当たり前に行っている消費の中には、
誰かの生活を支えているもの、地域を支えているもの、
環境へ負荷をかけているものなどがあります。

あたらしい消費の考え方を、
実際に体験を通じて学びたい方におすすめです。

・のりたけがはくすくとも行ける100人参加、
定員100名に達したら終了となります
参加希望の方は早めにお申し込みください。

【お申し込み】お申し込みは本事業
のページにて受付いたします。



講師プロフィール

講師 美浜市で暮らしを営む「エシカルファーマー」で「食育推進
実践者」に認定されている。食育、環境教育、エシカル消費の普及に
取り組んでいる。

講師 美浜市で暮らしを営む「エシカルファーマー」で「食育推進
実践者」に認定されている。食育、環境教育、エシカル消費の普及に
取り組んでいる。

講師 美浜市で暮らしを営む「エシカルファーマー」で「食育推進
実践者」に認定されている。食育、環境教育、エシカル消費の普及に
取り組んでいる。

プログラム

- 主催者挨拶
- 地域での取り組み事例発表①
「届けよう、服のミカハラプロジェクト」
美浜市立三輪小学校 5年生

昼食時間

「私たちの選択が未来を変える ～エシカルな暮らしのすすめ～」
講師 日本エシカル消費協会会長 大澤 美吉 里花さん

- 地域での取り組み事例発表②
「未来クリエーション ～Let's エシカルな!～」
美浜市旭大南高等学校 エシカルクラブ

主催 美浜市

協賛 関係各庁・美浜市経済建設部企業部 経済連

TEL 0883-52-1263

この講座は、地元消費生活センターが主催・後援しています。

講演会開催チラシ

令和2年度の事業について

- ・当初はワークショップ開催を計画したが、コロナの影響を考慮し、市CATVを活用した番組制作に変更した。
- ・県内大学教授による解説と具体的事例の紹介で構成した番組を12月から1ヶ月間放送予定。
- ・事前に市民及び小・中学生等に告知チラシを配布して番組視聴を促すとともに、チラシに刷り込んだハガキによる視聴者アンケートを回収予定。

エシカル推進事業

石井町 産業経済課

事業内容

平成29年度にエシカル自主宣言を行った町として、更にエシカル消費に対する機運を醸成するため、「石井町エシカルフェスタ」としてイベントを実施した。イベントでは、エシカル消費についての講演や発表、名西高校エシカルクラブ・町内エシカル推進団体の取組等の掲示、エシカルミニライブを実施し、エシカル消費普及啓発のための石井町エコバッグを配布した。

実施年度	令和元年度
予算	1,558千円
消費者行政強化 交付金活用額	779千円
対象	主に石井町民
参加人数	337名
宣伝方法	町の広報誌、ポスター ケーブルテレビ、SNS



石井町エコバッグの写真

○石井町エシカル宣言

石井町役場は人権や環境に配慮したまちづくりで、「支え合い育て合う、人の輝く町づくり」、「環境を考え暮らしを快適にするまちづくり」、「住民が主役の活力あふれる町づくり」などのテーマに取り組んできたこともあり、今後もやれること、出来ることを積極的に取り入れ、エシカル消費を推進していくと宣言した。

事業の特徴・ポイント

- ・四国大学エシカルソングプロジェクトで制作した「心にエシカル」を含む、シンガーソングライターの福富弥生氏のミニライブ及びエシカル消費について発表を実施。
- ・取組等の展示では、コロコロおばちゃんの会(町内農業の女性有志：大きさが規格外など市場には出荷できないが、品質には問題ない野菜を有効活用して食堂を開き、子供たちに地元野菜のおいしさや、食の大切さを伝える活動を実施)や名西高校エシカルクラブの日々の活動を展示。
- ・エシカル消費の普及啓発のための石井町の名入れをしたマイバッグ等のノベルティグッズを配布。

期待される効果

石井町エシカル宣言や石井町エシカルフェスタを通してエシカル消費の理念を広く普及啓発、マイバッグを推進することで住民に日頃からエシカルの意識を持ってもらい、レジ袋の削減を図る。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

- ・町内大型店舗でイベントスペースもあり、集客率の高いショッピングモールで行うことから、広報も多くの住民が参加するようにチラシやSNS、ケーブルテレビなどで広く行った。
- ・町民が多く集まる会合やイベントにおいてエシカル消費の普及啓発を行い、住民に日頃からエシカルの意識を持ってもらうよう工夫した。
- ・町全体として人や社会、地域に配慮し、持続可能な社会の実現を今後も目指す。

事業の効果、成果

- ・制作したエコバック2,289枚はイベント前後（令和元年11月～12月）で全て配布した結果、町内小売店舗などで買物する際にも所持者をよく見かけることから、住民のエシカル消費に対する意識は向上したといえる。
- ・町内小売業者へアンケート調査を実施した結果、レジ袋の配布枚数は令和元年7月に比べ令和元年12月は約60%～90%程度削減されているという結果が得られた。

以上のことから、住民のエシカル消費に対する意識高揚、レジ袋削減の目標は概ね達成できたと考える。

エシカル消費出前講座 広報誌での普及啓発「エシカル消費教室」

板野町 産業課

事業内容

平成29年度から地域課題の解決や持続可能な町づくりを実現する取組を推進する徳島版「地方創生特区」事業の認定を受け、産業課と消費生活相談所の連携で「エシカル消費の推進」に取り組んでいる。まずは、言葉を知ってもらうことから始め、相談所の行う出前講座において「消費者被害防止啓発とエシカル消費」講座を実施した。子どもから高齢者まで、全ての町民に「エシカル消費」は自分ごとであると捉えて、日々実践できる消費者になってもらうことを目指し、啓発に取り組んでいる。また、難しく思われがちなエシカル消費に親しみを持ってもらえるように、“おもしろおかしく、わかりやすく”をテーマにした「エシカル消費教室」を広報誌に2年間毎月掲載した。

事業名	エシカル消費出前講座	広報誌での啓発
実施年度	平成29年度～継続中	平成29年度～令和元年度
予算	—	385千円（令和元年度）
消費者行政強化 交付金活用額	なし	なし
対象	板野町民	板野町民
参加人数	平成29年度：281名 平成30年度：662名 令和元年度：417名	—
宣伝方法	チラシ等	広報誌、ホームページ



エシカル消費教室

事業の特徴・ポイント

エシカル消費出前講座は、消費生活相談所が既に実施していた出前講座の中で、消費者トラブルと併せてエシカル消費の内容を取り入れた。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

出前講座では、町民のどの世代にも広く浸透させるために、啓発の機会、場所、対象、内容などを柔軟に対応できるよう工夫している。例えば、高齢者や地域の団体などを対象とした場合、相談員が団体の会合に出向いて講座を展開する。また、食品ロスを題材にした大型紙芝居などを作製しおもしろおかしくエシカル消費を伝えたり、実際の商品を展示して手に取ってもらったりするなど体験型の講座を中心としている。さらに、教育委員会と連携した子供教室でのエシカル消費教室では、シールやカルタ、クイズ形式の教材を作製したり、消費者庁や徳島県の資料なども活用している。地域の既存の団体などと連携することで、エシカル消費の啓発だけでなく、消費者被害の啓発もしやすくなったと感じる。

しかし、若年層の20～40代などの世代への啓発の機会が少ないため、今後発展させていきたい。また、エシカル消費を「行動する」消費者へ、そして、SDG sという大きな目標に向かうための取組ができるよう、継続していきたい。



出前講座の様子

事業の効果、成果

令和元年度に板野町消費生活相談所開設10年記念式典などに参加した416名にアンケートを実施したところ、「エシカル消費の言葉と意味まで知っている」が58%、「エシカル消費を知ったのはエシカル消費教室・相談所の啓発」の回答者が71%と、啓発活動によってエシカル消費が住民の方に浸透していると考えられる。

エシカル消費をテーマに取り入れた 「総合的な探究の時間」

徳島県立名西高等学校

事業内容

名西高校では、「総合的な探究の時間」の中で、エシカル消費をテーマの1つとして取り入れて授業を行っている。

エシカル消費をテーマに取り入れた理由

当時の「総合的な学習の時間」の計画担当者が、校内で開催された鎌田安里紗さん（エシカルファッションプランナー）の講演会でエシカル消費について知り、興味を持ったことがきっかけである。講演では、服が劣悪な労働環境の中で大量生産されていることや、大量破棄されている場合もあることなどを知った。その計画担当者は、服の背景について考えさせられるとともに、自分がよく使っているテニスボールはどうなのだろうと疑問を持った。エシカル消費の対象として、鎌田さんが注目したのは服だったが、生徒一人一人の興味ある商品は異なるので探究対象の幅が広く、生徒が主体的に探究していく力を身に付けていくことができ、今後の自分の消費行動にいかすことができるのではないかと考え、エシカル消費をテーマに取り入れた。

1年生の学習内容例

- ・外部講師による「エシカル消費基礎講座」を通し、自分を取り巻く実社会の出来事に積極的に関心を寄せる態度を養う。
- ・「エシカル消費基礎講座」以外のことでエシカル消費に関する内容について調べ学習を行い視野を広げ、2年生からの探究活動につなげる。

●エシカル消費基礎講座のテーマ（令和元年度）

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. エシカル消費とは | 2. アップサイクル・ゴミ排出 |
| 3. ヘアドネーション・ゴミ排出 | 4. 障がい者支援につながる商品・応援消費 |
| 5. フェアトレード・児童労働・SDGs | 6. 行政機関の取り組み（石井町の取り組み） |
| 7. オーガニック・動物配慮 | 8. オーガニック・地産地消・食品ロス |
| | 9. 貿易ゲーム |

生徒の反応

授業前は、中学校の英語の教科書で「エシカル」という言葉が出てくるため、言葉は知っているが、エシカル消費の意味については知らない生徒が多かった。授業後は、生徒がエシカル消費を意識するようになり、エシカル消費に関するマークが目に入るようになったようで、マークの付いたお菓子を購入したりすることもあるようだ。

エシカル消費についての情報収集・講師派遣依頼

名西高校のある石井町には、月1回エシカル消費について情報交換を行っている「エシカル座談会」がある。その座談会に教員が参加して、エシカル消費について情報を得ている。また、座談会の中でエシカル消費に取り組んでいる方を紹介してもらい、「エシカル消費基礎講座」の講師をしていただけるよう、依頼している。



エシカル消費基礎講座の様子

地域との連携

コロナ禍で、エシカル座談会がオンラインでも開催されるようになり、生徒が参加したことがある。また、エシカル消費基礎講座で講師をしてくださった方が行っている海岸清掃活動にも参加させていただいた。他にも、子ども食堂やフードドライブの活動をされている団体から依頼があり、食品回収ボックスを作成した。授業を進めていく中で、講師の方からエシカル消費に関する情報をいただけるようになり、エシカル消費に関するイベントのチラシなど教室掲示の機会は増えた。学校からではなく、周りの団体から学校を巻き込んでもらえるようになり、地域と連携できて大変ありがたい。また、学校のホームページに活動の様子を掲載しているが、座談会などからは、学校からの情報を更に発信してほしいという要望もある。

イオンモール徳島での取組

イオンリテール（株）中四国カンパニー

事業内容

イオンリテール（株）は、平成24年6月に「徳島県とイオン株式会社との地域活性化包括連携協定」を締結し、平成29年6月に「とくしま消費者行政プラットホーム」開設を機会に四国大学、各高等学校等とエシカル消費推進に関する取組を行い、イオンモール徳島においても、徳島県と連携した取組を実施している。

イオンモール徳島と徳島県がコラボした取組

・「夏休み、親子で学ぼう！イオンdeエシカル消費」（平成29年8月25日）

エシカル関連認証マークが入った商品が並ぶチェックポイントを親子で巡りクイズに答えながらエシカル消費に関する理解を深める取組。

・「みんなで学ぶ！エシカル教室」（平成30年8月26日）

エシカル消費につながる認証マークを学び、実際に食することを通して、生産から食卓までのフードチェーンを体感できるエシカル教室を実施。

他にも、フェアトレードや食品ロス、障がい者支援など毎年度エシカル消費をテーマにした様々なイベントでコラボしている。

取組の効果・気付き

- ・環境配慮型商品、フェアトレード商品の紹介を通じて、エシカル消費推進の機運醸成が図れ、令和元年5月に徳島県とレジ袋削減等による協定を締結し、プラスチックゴミの削減に繋げる。
- ・エシカル消費推進の目的、背景を消費者、子どもたちに正しく知っていただき、未来につなげることの大切さに気付いた。

エシカル消費啓発のために苦労した点

消費者や学生にエシカル消費に関する関心を喚起することに苦労したが、徳島県や徳島県教育委員会と連携し、エシカル消費を知っていただく機会につながった。

エシカル消費自主宣言

徳島県の取組に協力するほか、県の協力を仰ぎ、「エシカルモールin徳島」を実施するなど、エシカル消費の啓発活動を行ってきた。このことから令和2年6月には、徳島県と協業し「エシカル消費」を啓発するイベントの実施や、脱プラスチックの推進など様々な取組を行っていくと宣言した。

●エシカルモールin徳島でのワークショップの内容

- ・脱プラを意識した、環境に配慮したオリジナルマイバッグ
- ・徳島県内の障がい者施設で作成された藍染の切れ端を使用した缶バッジ
- ・（株）サエラ（オールプラスチックで作られたリサイクル可能な傘販売）のオリジナル傘
- ・地元企業による紙パックとトイレトペーパー交換
- ・全国各地のエシカルクラブの活動パネル展



エシカル消費推進の取組

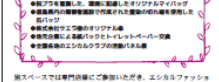
2/2 エシカルバレンタイン2019

インゾーグリーティストのMix & Match (ミックス＆マッチ) 商品によるワークショップ、エシカル消費をテーマにしたワークショップを開催。



10/19 エシカルモールin徳島

エシカル消費を推進している徳島県に協力を仰ぎ、ローカルイノベーション推進のためのワークショップなどのイベントを実施。



10/20 ノーフードロスイベント

10/20に開催する「第3回「食ロス削減全国大会」in徳島」のプレイベントとして、徳島県と協業し、地産地消の推進、食品ロス削減の啓発、食料の大切さを伝えるイベントを開催。



第20回 ナイスハートバザールin徳島 & 第7回 スウィーツコンテスト

10/20に開催する「第3回「食ロス削減全国大会」in徳島」のプレイベントとして、徳島県と協業し、地産地消の推進、食品ロス削減の啓発、食料の大切さを伝えるイベントを開催。

AEON MALL
イオンモール徳島

イオンモール徳島での取組

